

Minami Kyushu University Syllabus									
シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科	国際教養学科		
科目名称	英語学入門					授業形態	演習		
科目コード	590100	単位数	1単位	配当学年	1	実務経験担当教員		Active・L	○
担当教員名	水島 孝司							ICT活用	
授業概要	<p>本授業の主たる目的は、受講生が言語の普遍性と多様性に気づき、自らのことばの見方・考え方を広げるのを支援することである。授業では、英語が属する語族、英語の歴史、および形態論を取り上げる。小テストは学期中に3回行うが、プリントに掲げる毎授業の「到達目標」から出題する。学期末には、本授業で学んだことのうち最も興味を持った内容を深め、A4判2枚程度(本文1500文字以上、1800文字以内。これとは別に参考文献を載せる)のレポートを書いてもらう。</p>								
関連する科目	英語学習法								
授業の方法と進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・受講生の理解度を確認しながら、講義形式で授業を進める。 ・毎回配布するプリントとパワーポイントを用いた説明を行う。 ・「形態論」を取り上げる授業では、英単語を科学的に分析した結果をグループで話し合い、その内容を板書して発表してもらう。 ・前時に配布されたプリントを持参すること。 								
第1回	<p>オリエンテーション 授業の概要、評価方法などについて説明する。英語学とはどのような学問か、英語が属する語族について学ぶ。</p>								
第2回	<p>英語史(古期英語) 古期英語の特徴を主に語彙・文法の観点から学ぶ。現代ドイツ語と古期英語を比較し、類似点と相違点を確認する。</p>								
第3回	<p>英語史(中期英語) 中期英語の特徴を主に語彙・文法の観点から学ぶ。ノルマン人の制服、フランス語が英語に与えた影響などについて解説する。</p>								
第4回	<p>英語史(中期英語～近代英語) 近代英語の特徴を主に語彙・発音の観点から学ぶ。英語語彙の3層構造(本来語、フランス語、ラテン語)、大母音推移などについて解説する。</p>								
第5回	<p>英語史(近代英語) 近代英語期に生まれた「ジョンソンの英語辞典」の特徴について学ぶ。また、Oxford English Dictionaryで語形と意味の変遷を概観する。</p>								
第6回	<p>形態論－1 「形態論」の基礎知識 「形態論」と「形態素」の定義、および形態素の種類(自由形態素と拘束形態素)について学ぶ。</p>								
第7回	<p>形態論－2 屈折形態素と派生形態素 拘束形態素の下位グループである「屈折形態素」と「派生形態素」について学び、その知識を生かして英単語を科学的に分析する練習をする。</p>								
第8回	<p>形態論－3 接頭辞、接尾辞 接頭辞、接尾辞の知識を増やししながら、英単語を科学的に分析する練習をする。</p>								
授業の達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・英語史に関する基礎知識を身につけ、現代英語への理解を深めるとともに、ヨーロッパ諸語および日本語への関心を高める。【知識・理解】【態度・志向性】 ・形態論に関する基礎知識を身につけ、それを生かして英単語を科学的に分析できる。【知識・理解】【汎用的技能】 ・英語史および形態論に関する知識を英語学習に応用し、活用することができる。【汎用的技能】 								
学修成果との関連	4.多文化・異文化に関する基本的知識を有する。								
授業時間外学習【予習】	<ul style="list-style-type: none"> ・プリントに掲げる毎授業の「到達目標」でよく理解できなかった部分について教員に質問する準備をする。また、授業内で複数回ある小テストに備えて勉強する。(30分程度) 								
授業時間外学【復習】	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で配布するプリントをよく読んで、理解を定着させる。(30分程度) ・授業内容に関連する図書や資料を読んで、授業で指示された内容のレポートを作成する。(1時間程度) 								
課題に対するフィードバック	提出されたレポートにコメントを書いて返却する。								
評価方法・基準	小テスト(30点)、レポート(40点)、参加度(30点)								
テキスト	プリントを配布する。								

参考書	『新 えいご エイゴ 英語学』(稲木昭子ほか著、松柏社、2016年、第3版) 『はじめての英語学』(長谷川瑞穂編著、研究社、2014年、改訂版) 『英語の「なぜ?」に答える はじめての英語史』(堀田隆一著、研究社、2016年) その他、随時、授業で紹介する。
備考	単位取得のためには、分量等の条件を満たしたレポートを期限内に提出しなければならない。